

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
勢	セイ せい いさおい								聖武天皇雅集
勢	④								聖武天皇雅集
勢									聖武天皇雅集
									聖武天皇雅集
勳	クン いさおし								家録萬象名義
勳	人②								家録萬象名義
勳	③								家録萬象名義
勺	シャク								家録萬象名義
勺	人①								家録萬象名義
勺									家録萬象名義
勺	コウ まがる とらえる								家録萬象名義
勺	常①								家録萬象名義
勺	ク コウ あたる まがる								家録萬象名義
勺	教5常①								家録萬象名義
勺									家録萬象名義
勺	におう								家録萬象名義
勺	常①国								家録萬象名義

【勳】説文古文は「勳」でJIS第3水準にある。この字体は張表碑や康熙古文にも合致し、中国は現代でもその字体を使う。
【勺】干祿字書は「勺」を〈俗〉、「勺」を〈正〉としている。「勺」の異体字だったものが、後に意味が分かれて別の字種になったらしい。「勺配」の「勺」という用法は江戸期になっ

て見られる。北魏では「勺」の字種として「勺」の字体を使うことが正體派の多数派が唐代になると「勺」の字体は見えず、「勺」に統一されている。法華義疏は「勺」の字体を書いているので唐代よりも古い時代の字体の影響を受けていると思われる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												勢 干祿〈俗〉 中国
												勢 五経〈訛〉 台湾
												勢 香港
												勳 段注・力部 中国
												勳 段注古文 台湾・香港
												勳 唐・褚遂良真冊
												勺 中・台・香
												勺 中国・台湾
												勺 干祿〈俗〉 香港
												勺 中・台・香

【勺】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。国字。平安時代以降に使用例が確認できる。小野道風「屏風土台」では「勺」の字体を書いている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
区	ク								王勃詩序
區	②								
匹	ヒツ ひき たくう								瑠玉集
匹									龔書指歸
疋	ショ シヒ ひき あし								家録萬象名義
									性靈集
医	イ いやす くすし								聖武天皇雜集
醫	②								最澄
醫	④								龔書指歸
匿	トク ジョク かくれる かくまう								龔書指歸
匿									龔書指歸
十	ジュウ ジツ とおと								王勃詩序

【区】九經字様では「匚」に分類されている。漱石は「坊っちゃん」では新字体を書き「ころ」では旧字体を書いている。
【匹】五經文字では「匚」に分類されている字形は「匚」だ。「匚」の「L」を「し」と誤った字体がある。江戸版本に「区」の字体がある。「匹」と「疋」は異体字として扱われること

がある。五經文字では「疋」を〈訛〉としている。中国では「疋」と「匹」を統合して「匹」のみを使う。「疋」は「足」と字体が衝突している。説文では「疋」は「足也」、「足」は「人之足也」と説明されている。
【医】「医」と「醫」はもともと別字。大徐本では「医」は

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												区 中国
												區 台湾 區 香港
												匹 千祿(俗) 匹 中国
												匹 台湾 匹 香港
												疋 五經(訛) 疋 中・台・香
												医 明治の漢字 中国
												醫 千祿(通) 醫 台湾 醫 香港
												醫 千祿(俗) 醫 香港
												匿 五經(訛) 匿 中国
												匿 台湾 匿 香港
												十 中・台・香

「盛弓弩(おおゆみ)矢器也」、「醫」は「治病工也」とする。「醫」には下部が「巫」になった字がある。醫術のまじないに「巫女」がかかわったのだろうか。「醫」の略体が「医」と字体衝突した。「醫」の略体として「医」を使うのは江戸期からか。江戸版本では「医」が大多数。千祿字書では「巫」に従

う字体を〈通〉としているが、五經文字では〈俗〉としている。文部省活字は「醫」だが、太宰治は「人間失格」の直筆原稿中、「醫」を1回、「医」を7回使っており、略体の「医」は学校教育とは別にかなり浸透していたと推定できる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期			
千 教1 常①	センチ		睡虎地秦簡	馬王堆	智永千字文	集字聖教序	魏靈藏造像 九成宮	五経・序	王勃詩序			
			郭店楚簡	段注・十部	敦煌漢簡	禮器碑陰						
			子彈庫楚帛	居延漢簡	禮器碑陰							
午 教2 常①	ゴウまひる		金文	説文・午部	馬王堆	三老諱字忌日記	孫秋生筆造 孟法師碑	千禄・序	長安碑二山碑文			
			睡虎地秦簡	居延漢簡	石門頌							
			侯馬盟書	居延漢簡	熹平石經							
			包山楚簡	武威漢簡								
升 常①	ショウ ますのぼる		睡虎地秦簡	説文・斗部	馬王堆	敦煌漢簡	智永千字文	淳化閣帖	弔比干墓文 温彦博碑 五経・斗部	杜家立成		
			睡虎地秦簡	馬王堆	武威漢簡	寶子子碑	孔子廟堂碑					
			秦公毀	郭店楚簡	居延漢簡	石門頌	道因法師碑					
				居延漢簡	曹全碑		孟法師碑					
半 教2 常①	ハン なかば		秦公毀	説文・半部	馬王堆	陽三老石堂	淳化閣帖	集字聖教序	元延明墓誌	雁塔聖教序	九經・半部(隸書)	王勃詩序
			睡虎地秦簡		銀雀山竹簡		王獻之	淳化閣帖	元慶墓誌	破邪論序	九經・半部(隸書)	
					銀雀山竹簡							

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
千	子	千	千	千			千	千	千	千	千	千
関戸本朗詠	節用	十1		坊っちゃん								中・台・香
子	子											
関戸本朗詠	農家調宝記副篇											
午	午	午	午	午			午	午	午	午	午	午
粘葉本朗詠	農家調宝記副篇	十2		坊っちゃん								中・台・香
午	午											
粘葉本朗詠												
升	升	升	升				升	升	升	升	升	升
元曆萬葉色	節用	十2										五経(訛) 中・台・香
升	升											
農家用文庫大全												
半	半	半	半	半	半		半	半	半	半	半	半
粘葉本朗詠	消息案文	十3		坊っちゃん			字典体			×		中・台・香
半	半						標準体					
粘葉本朗詠	節用											

【千】説文解字の大徐本では「十百也。从十，从人。」としているが、段注本では「十百也。从十，人聲。」としている。甲骨や金文の字形を見ると「人+一」のようにも見える。

【升】南北朝以降は咎なし点が付くことが多い。逆にいうと隸書には咎なし点は付かない。

【半】漢字整理案に字典体と標準体の別がある。当用漢字字体表で標準体が採用されたが、岩田母型製造所にはその字体の母型がなく新刻された。